一般社団法人 木 創 研 事務局
〒113-0033東京都文京区本郷3-25-13
中村勉総合計画事務所内
電話 03-3816-0085
メール IWI@iceice.com

木創研トピックス　2020　06

「木創研の家 No.5　四谷の家」
オーナー様こだわりのガレージライフが
BMW BIKES　に掲載されました。

木創研パッシブゼロエネルギーハウス

東京都新宿区に建つ**「木創研の家 No.5 四谷の家」**

- 1 階は RC 造でガレージと書斎とし、2 階とロフトが木造で居住スペースになっています。
  外皮平均熱貫流率 UA 値 0.46 の ZEH で、床下空調や越屋根換気、木や自然素材を多用した内装など木創研らしい工夫が満載で、温かく快適な家です。
- 木創研の家は、オーナー様のご希望に応じて多様なバリエーションが可能です。

1 赤く塗られた日本ドアコーポレーション製のガレージドア。木製でなおかつ準防火地域対応となるものを採用している。2 ガレージの横には書斎スペースが設けられている。無謀のバックナンバーも並ぶ書棚は、サイズや重さも計算され作りつけられたものだ。

峠で泥だらけになった道具まわりを一気に洗い上げるため、タイヤがすっぽり入るサイズのシンクや高圧洗浄機などは必需品だそう。ガレージ内の様々なディテールから、使い勝手の良さが伝わってくる。

R1200GSを使い全国の峠を巡ってきた中川さん。著書である「全国2964峠を歩く」では、全国の峠に関することはもちろん、BMWのバイクを使うことのメリットなども書かれている。

BMWと共に生きる
ガレージのある人生

Life With a Garage.

峠研究家が考えた高効率ガレージ

これまで日本中の峠の調査を行なってきた中川健一さん。R1200GSをはじめ、峠を巡るために必要としてきた道具に求めるのは利に適った機能と品質。そんな中川さんはガレージへのこだわりも強い。

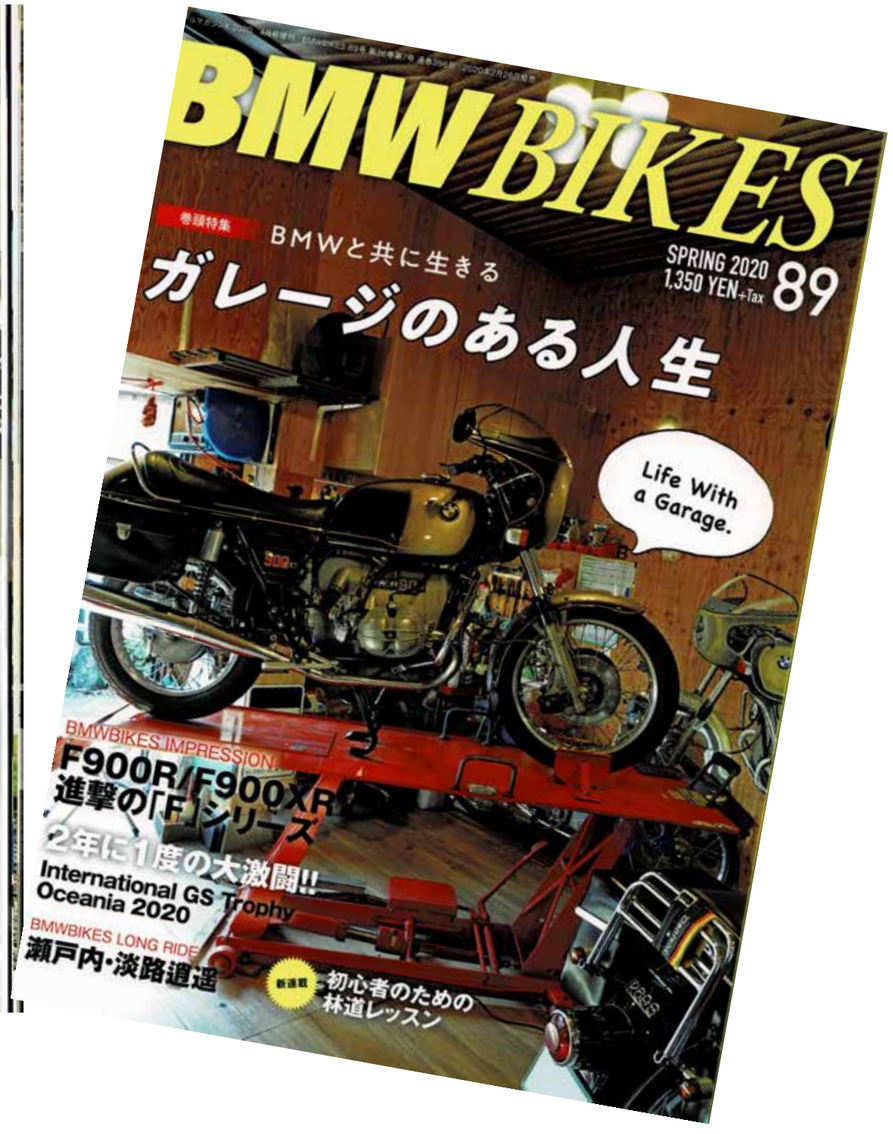
Text & Photo / Dan Kometsu

峠研究に使用する道具を格納するための空間造り

ここで紹介する中川健一さんのガレージは、住宅の一階部分に設けたいわゆるガレージハウスだ。赤く塗られた木製オーバードアがとても印象的。R1200GS、911、ジムニーなどが収まる豪華なガレージ空間が広がっている。

ガレージ内を覗く前に、施主である中川さんについて少々触れておこう。峠研究家という肩書を持ち著書を出版する傍、多方面で講演などを行なっているが、その峠研究を始めるきっかけが、実は雑誌BMWバイクスであった。それというのも、昔BMWバイクスで行なっていたマイレッジキャンペーンに常連的に参加されており、毎年上位に名を残していた。今回取材を行なった私もそのことがよく記憶に残っており、再会した時もとても親和感を持ったものだ。そのキャンペーンが終了し、ほぼ目的を達していた中川さんが出会ったのが、峠だった。当初R1100Rで巡っていたが走破性能を求めR1200GSへと乗り換え、さらに遠方へ足を延ばすためにG911を、深い山に立ち入るためにジムニーや電動MTBと道具を揃えていった。現在では全国に3000以上もある峠のほぼすべてを網羅した、そんな経歴を持つ中川さんのガレージを一言で言うならば「質実剛健」だ。

RC造のガレージは、ゆとりを持ったサイズで設定されており、ガレージ後方には作業台の他お湯も出るシンクが用意され、さらには書斎も隣接されている。その広さや配置を注視するだけで使い勝手の良さがとてもよく考えられていると伝わってくる。

「いつでもすべてのクルマが動くようにしておくためにトリクル充電器を確保し、タイヤを丸ごと入れられお湯も出せるシンクや、クリプトン球色で揃えたLED照明など、メンテナンスの事も考えた設計としています。雨が降っても裏でも冬でも快適に作業ができ、さらにはバラし途中でも中断できる。ガレージは私の遊び場なのです」と中川さんは話す。さながら峠研究家の秘密基地なのである。

無線インレッジキャンペーンにおいて常に上位に名を残していた中川様さん。自分の走行を記録することがきっかけで峠研究家となった。